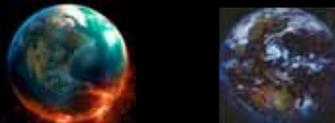


「水際をいなしの叡智から再評価する」 - 環境革命の時代に対応して -



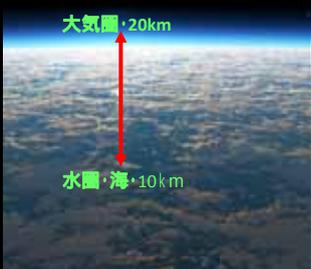
涌井 史郎(雅之)
 東京都大学・環境情報学部・教授
 岐阜県立森林文化アカデミー・学長

地球環境の危機 = 命の危機



**地球とは38億年の生命史が
築き上げた大気と生物層の薄い膜**

生命圏 30km / 半径6400km
直径20cmと仮定すると僅かに0,5mm



大気圏・20km
水圏・海・10km

GARDENとは古代ヘブライ語で囲われた楽園の意味
= 地球こそ閉鎖系の楽園

エコロジカル・フットプリント (人口一人当たり)

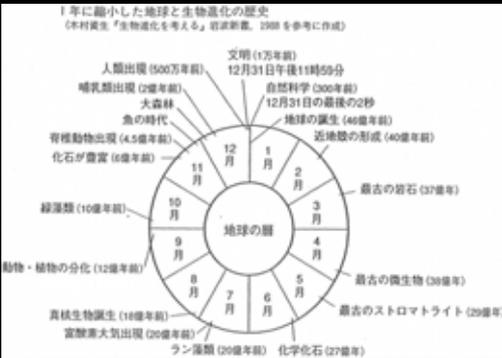
アメリカ	9,7Gha	日本	4,8 Gha	欧州	4,7G ha
中国	1,6 Gha	インド	0,8 Gha		

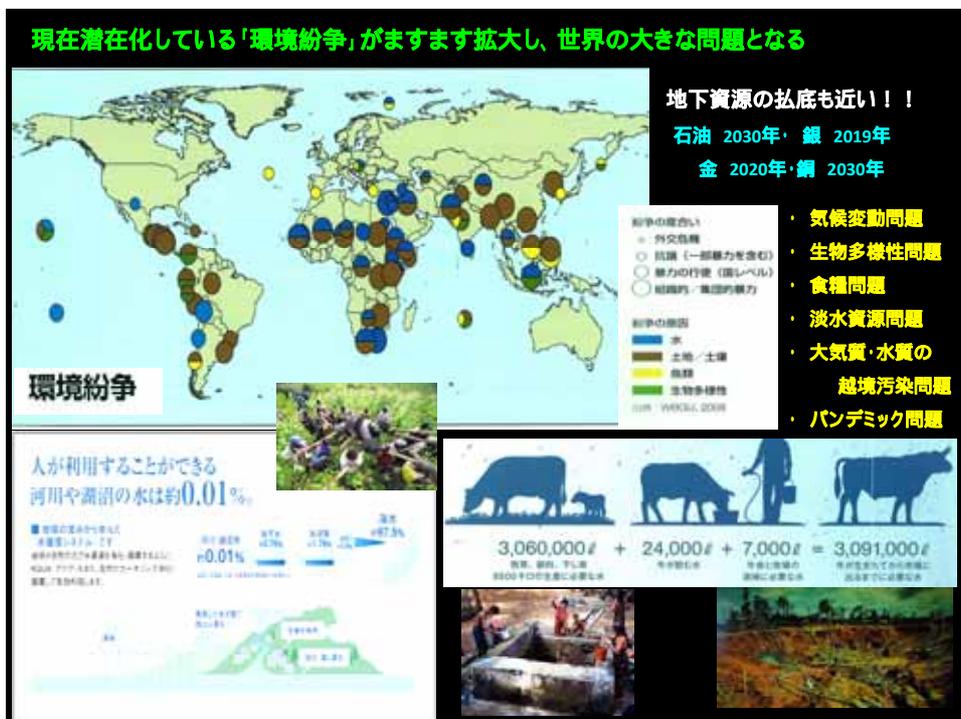
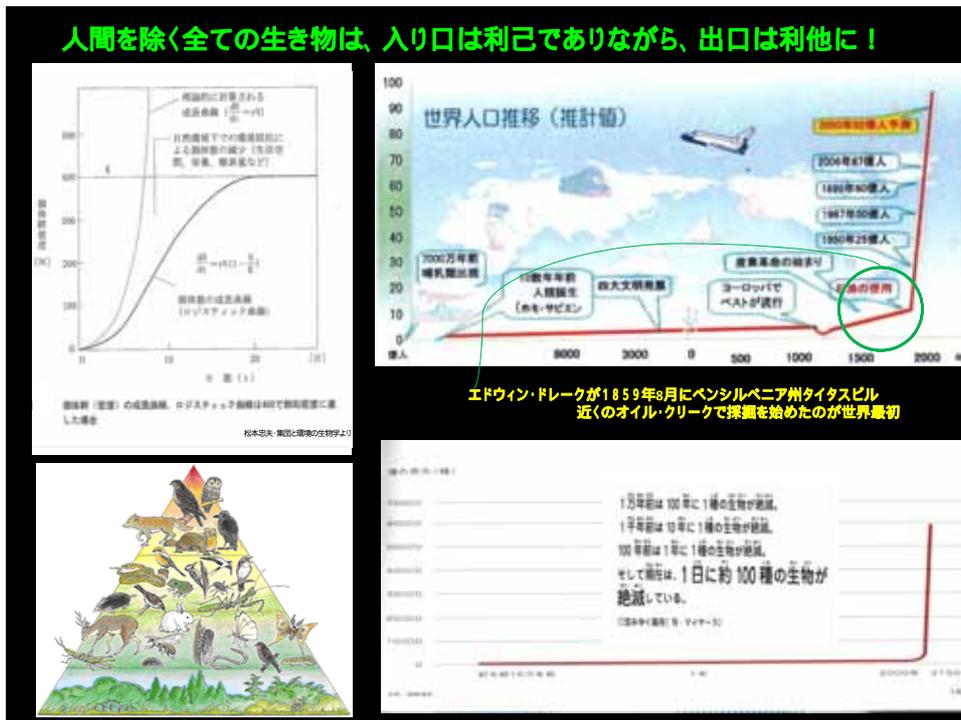
今既に人類は地球**1・25個分**の生活
もし地球全ての人々が
日本並の生活をしたとすれば **地球は2・4個**

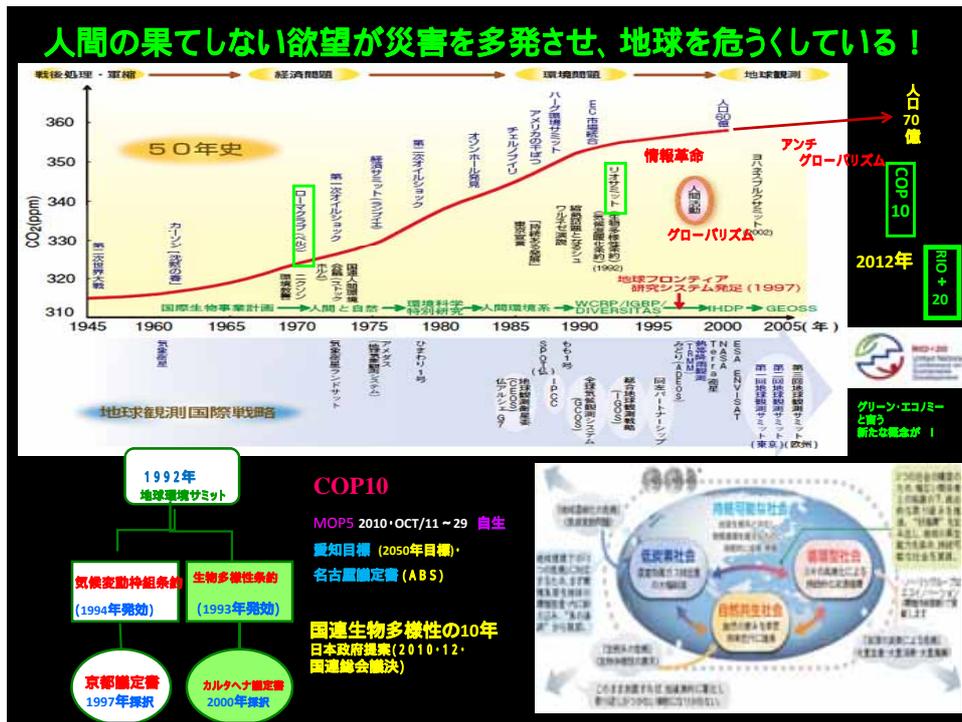
アメリカ並みの生活では、地球は5・3個 必要



1年に縮小した地球と生物進化の歴史
(本村廣生『生物進化を考える』岩波新書、2008年を参考に作成)







COP10 MOP5 2010・OCT/11～29 自然との共生

(カルタヘナ議定書締結国会議・宣伝子起み替え等の準備)

愛知目標 (2050年目標) - 名古屋議定書 (ABS)

COP10標語:
"Life In Harmony, into the Future"
"いのちの共生を、未来へ"

愛知目標のビジョン:
a world of "Living in harmony with nature"
"自然と共生する"世界。

リオデジャネイロ・サミット以来20年、我々未来の子供たちの為
そして地球に対し何をなしたのか！

... どうやって直すのかわからないものを、こわしつづけるのはもうやめてください。
ここでは、あなたたちは政府とか企業とか団体とかの代表でしょう。あるいは、報道関係者が政治家かもしれない、でもほんとうは、あなたたちだれかの母親であり、父親であり、姉妹であり、兄弟であり、おばであり、おじなんです。そしてあなたたちのだれもが、だれかの子どもなんです。
私はまだ子どもですが、ここにいる私たちみんなが同じ大きな家族の一員であることを知っています。そうです50億以上の人間からなる大家族、いいえ、じつは3千万種類の生物からなる大家族です。国境や各国の政府がどんなに私たちを分けへたてようとしても、このことは変えようがありません。私は子どもですが、みんながこの大家族の一員であり、ひとつの目標に向けて心をひとつにして行動しなければならぬことを知っています。私は怒っています。でも、自分を見失ってはいけません。私はこわしい、でも、自分の気持ちを世界中に伝えることを、私はおそれません、.....

先の先、見えないものを見出す！

産業革命的発想

基盤・成長 = 社会資本財重視
豊かさを追い求める社会
利益結合型社会
中央集権的国家構造
まちづくり型 (地域)






環境革命的発想

成熟の基盤 = 社会資本 + 自然資本
豊かさを深める社会
地縁結合型社会
地域個性重視型
自立分節型国家構造
まち残し型 (地域)



自然資源は人類に隷属すると言った産業革命の発想をネガとし
 自然資本財重視の思想をポジとする技術的発想の転換を！

東日本大震災・複合災害

2011年6月30日時点で、震災による死者・行方不明者は2万人以上、建築物全壊・半壊は合わせて21万戸以上、ピーク時の避難者は40万人以上、停電世帯は800万戸以上、断水世帯は180万戸以上に上る。政府は震災による被害額を16兆から25兆円と想定。

3:11・14:46;地震 115:50;津波 3:12:14 福島第一原発 1号・3号機水素爆発



人口減少

震災と原発事故で避難者が賑わっている福島県では、県民20万人の約1.5%にあたる約3万人が県内を離れ、全国に！

岩手県: H23・3・1	1326643人	
H24・1・1	1311173人	15470
宮城県:	2346853人	
	2324211人	22642
福島県:	2024401人	
	1982991人	4141

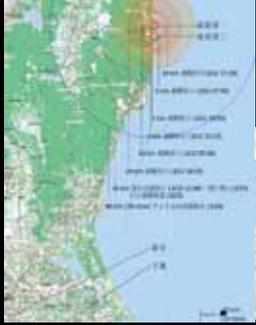
防災 < 減災

克災

被災地の津波の歴史

貞観11年(869)5・26以来
 1585年・1611年・1651年・1676年
 2度)・1687年
 1687年・1689年・1696年
 ・1716 - 1736年・1730年
 1751年(2度)1781年 - 1789年
 ・1853年・1856年
 ・1868年 明治元年)・1894年
 ・1896年
 ・1922年・1933年(昭和8年)・
 ・1960年 予り津波)
 ・1963年・2010年・2011年

東北の人々は、たび重なる自然災害を受けながら、それを克服し、その土地を愛し、自然と共生する仕組みを考えその土地に暮らし続けてきた。


国土強靱化計画というレジリエンス

図1 高潮+暴風雨+高波地域 調査方針

奥尻島復興防波堤

大谷漁港近くの新堤防計画のイメージ図

新しい堤防の高さ 標高9.8m
 +3.3m
 地盤の高さ 標高6.5m
 -2.6m
 元の堤防の高さ 標高3.9m

海面
 コンクリート
 盛土

宮城県気仙沼土木事務所資料から作成

日本の国土の特質

列島の住人の歴史は、歴史的に、厳しく、豊かで個性的な自然。とりわけ水利との闘いの歴史！

頻発する地震災害

我が国は、国土面積では世界のわずか約 3.8%ながら、マグニチュード6、0以上の大地震の発生頻度をみると20、3%を占めるほどの世界でも有数の地震発生国。

マグニチュード6、0以上の地震回数 ○ 近年における大地震の発生状況 (1970~2010) (注)M6.0以上

発生年	震源地	震害	被害
1994. 4. 1	宮城県沖地震	M7.3	148
1994. 10. 4	兵庫県南部地震	M7.3	148
1995. 1. 17	阪神・淡路大震災	M7.3	148
2000. 10. 30	千葉県地震	M6.8	148
2004. 10. 23	新潟県中越前地震	M6.8	148
2007. 9. 26	新潟県中越後地震	M6.7	148
2011. 3. 11	東北地方太平洋沖地震	M9.0	148

日本の厳しい河床勾配

水網の国

名古屋市

- 標高100m以上
 - 岐阜・埼玉、東京都、伊豆半島
- 河川密度
 - 国土面積の10%が河川密度が1km以上
- 大川、大湖
 - 国土面積の10%が河川密度が1km以上
- 大規模の水害は数回発生以上
 - 0.5%が被害発生地域

恵みと災いをもたらす水網的国土

人口当たり建物浸水戸数
1990-2005年 年平均

棟/百万人

- 100 ~
- 200 ~
- 300 ~
- 400 ~
- 700 ~
- 1000 ~
- 1300 ~

警察庁資料

石井権(いしいけん)

2012年7月12日白川が氾濫した熊本市

昭和28年6月26日に熊本市の白川が氾濫した「白川大水害」では、死者・行方不明者が422人に

踏車を使った揚水

治水・利水への知恵

水田稲作に必要な充分な水環境

	1月		2月		3月		4月		5月		6月	
	上旬	下旬										
稲の生育状況												
水田の灌漑状況												

水を制する

自然と共生し、自然の連関(森・川・海など)を識る 伝統的 日本の文化と暮らしの知恵の解!

棚田の機能

上流部の砂防と雨水貯留の機能を担う

【天水鳥の棚田】

毛ザイタ状に天然林と人工林が存在する

棚田の封岸にある森林(天然林)

地すべり地形に造成された露脊状の棚田

'丸山千枚田'は、熊野市紀和町の丸山地区の山腹にあり、高低差がおよそ00mの中に1,300余枚の水田が並び日本最大規模の棚田

加藤清正の水との闘いと知恵

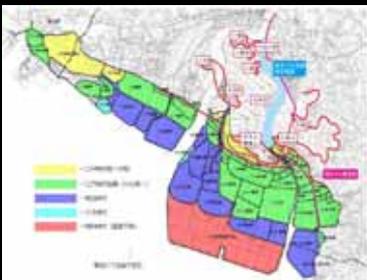
「鼻ぐり井手」は、現在の菊陽町・馬場楠堰井手に残る清正独創の工夫である。井手(用水路)を壁で仕切る構造とし、壁の底部中央に穴を開け、底の水の流れを速くし、阿蘇特有の火山灰土(ヨナ)が底に溜まるのを防いでいる。深く開削した用水路は、人力で水路のヨナをさらうことが難しいため、このような仕掛けを考案したと考えられる。今も現役の用水路として市内の水田を潤している。




馬場楠堰井手



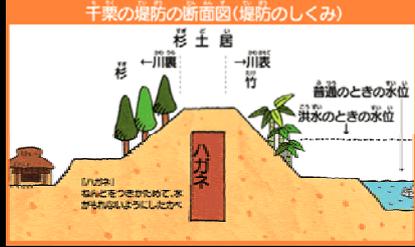

五名市の堤防跡
「旧五名干拓施設」
(国の重要文化財)

菊池川の流れを変え、
支流だった現在の菊池川を主流にした。西側の潮受けとして千田河原から横島の西端の栗之尾に至るまでの海岸堤防を構築し、これを西塘と言う。これに対して東塘を千田村あたりから大浜町を経て5kmの潮受け堤防を築き、これにより小田牟田新地680余町の新拓地ができた。

佐賀県・鍋島藩・家老 成富兵庫茂安の佐賀平野との闘い

筑後川治水の為に、延長12kmにおよぶ大規模連続堤防を完成させている。俗に干葉堤(ちりくたい)と呼ばれ、現在では、流路に沿う堤防強化に伴い完成元和元年から12年の歳月を要し、堤敷幅54m、堤防高7.2m、天端幅3.6m当時の姿を消したが、公園として堤防の一部が復元されている。

干葉の堤防の断面図(堤防のしくみ)

杉玉 杉 川原 川原 竹 普通のときの水位 洪水のときの水位

ハガネ

「ハガネ」なんでもつかかためて、水がもたないようにした穴







欧州の運河



Venice

16世紀中葉に建設された全長約3kmにおよぶ逆S字形の「Canal Grande(大通河)」が

キール運河 1895年

ライン・マイン・ドナウ運河 1992年



パリの下町を抜ける運河クルーズ



ミッテルラント運河 1681年

ミディ運河(カナール・ドゥ・ミディ)
ガロンヌ運河

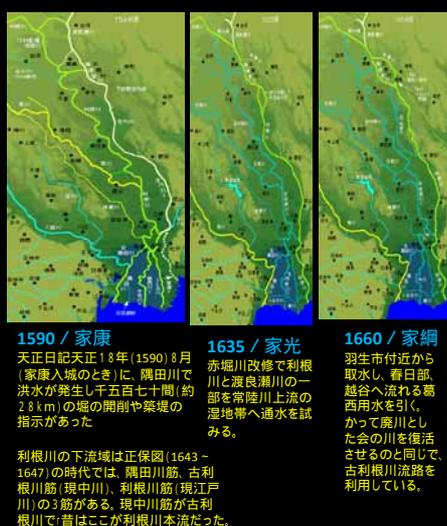
国王ルイ14世による国家プロジェクト




コリントス運河

徳川將軍家の水との闘い(利根川東遷)

徳川家康は江戸湾に流れていた利根川水系の治水に着手し、洪水地帯を農耕地に変え、水運路の強化を行った



1590 / 家康
天正日記天正18年(1590)8月(家康入城のとき)に、隅田川で洪水が発生し千五百七十間(約2.8km)の堤の開削や築堤の指示があった

利根川の下流域は正保園(1643-1647)の時代では、隅田川筋、古利根川筋(現中川)、利根川筋(現江戸川)の3筋がある。現中川筋が古利根川で、昔はここが利根川本流だった。

1635 / 家光
赤堀川改修で利根川と渡良瀬川の一部を常陸川上流の湿地帯へ通水を試みる。

1660 / 家綱
羽生市付近から取水し、春日部、越谷へ流れる葛西用水を引く。かつて廢川とした会の川を復活させるのと同じで古利根川流路を利用している。



江戸時代の利根川(赤線)
現在の利根川(青線)

1809 / 家斉
赤堀川が7.0mほどに拡幅され、利根川の水の多くが赤堀川から常陸川へ流れるようになる。
常陸川流域で水害が増加し、流域同士の対立が深まる。
文政年間(1818-828) / 家斉・水戸藩大原左金吾が現在の北浦から鹿島港へ抜ける利根川放水路を開削して水位を下げて洪水を防ぐことを提案したが資金不足で実行できず。

www.asahi-net.or.jp/~vm3s-kwkm/tonc/index.html より引用し改題

伊達正宗の水との闘い: 貞山運河

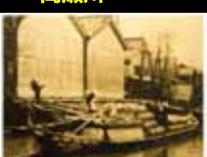
阿武隈川河口の瀧崎から名取川河口の扇上に至る区間で、「木奥堀」と呼ばれ、政宗の晩年から二代忠宗の時代の1597～1601年に、川村孫兵衛重吉が手がけた。1658～1673年に開削されたのが、七北田川河口の瀧生から塩釜港までの区間で、「舟入堀」と呼ばれる。1658～1673年に開削されたのが、七北田川河口の瀧生から塩釜港までの区間で、「舟入堀」と呼ばれる

全長33.38km




Teizan-bori

高瀬川



利根運河





利根川と江戸川を結ぶ水運用の運河で1890年の開通。東北地方からの物資を東京に運ぶ際、房総半島を短絡する目的で造られた。日本初の西洋式運河。
全長は約8km

美しき日本 = 意味のある美しさ = 自然との共生のランドスケープ(社会生態学的生産ランドスケープ)

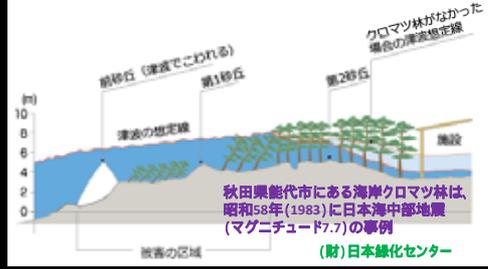


暮らしを守る為、人々が歴史に築いた海岸林
 = 地縁
 = 人と人との絆を
 ふるさとに繋ぎとめる
 価値創造！



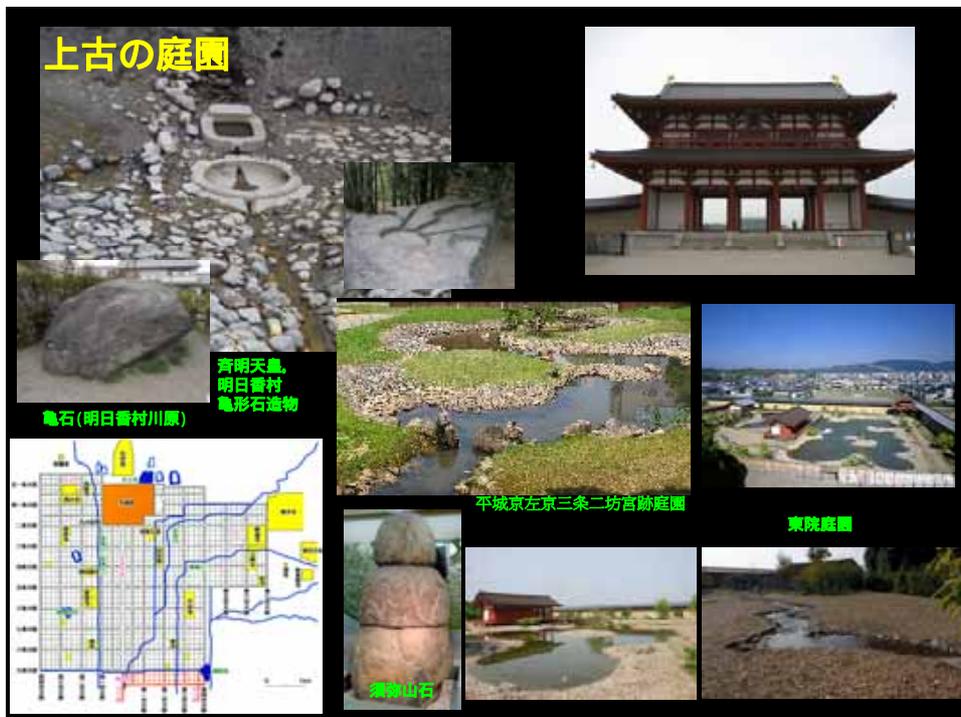
仙台湾の南部の沿岸地帯は砂浜が現在よりも幅広く遠なっていた。このため、飛砂、潮害と高潮がこれより内陸部に生活する人々を苦しめ、また、開拓を困難なものとしていた。伊達政宗公は慶長5年(1600年)12月、高砂村藩生に雇をおく和田因幡守に命じ、海岸造林に着手した。因幡守はこれを実行するために遠州浜松からクロマツの種子を取り寄せ、翌慶長6年に苗畑を設け、苗木の育成を開始した。

享保6年(1853年)に仙台湾の山口原藩は天保の飢饉(1833~1837年)の原因が海岸林のマツが少いため、耕地に影響を与えたとして、伐採を認め、平時には耕種への潮、雪を防ぐとともに、防衛上の必要性もあり、油断なく取り扱おうと願っていた。この頃は外国船の来航が頻繁となり、幕府、各藩とも賑がしい状態にあったが、当主の伊達慶邦は海岸林植栽の方針を示していた。



秋田県能代市にある海岸クロマツ林は、昭和58年(1983)に日本海中部地震(マグニチュード7.7)の事例
 (財)日本緑化センター

上古の庭園



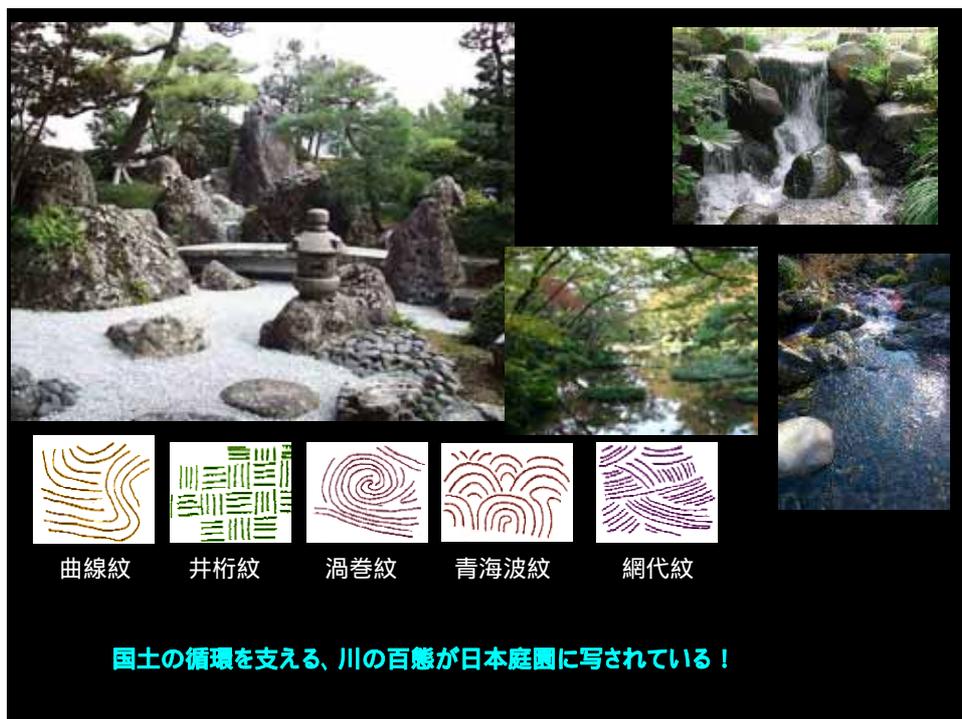
青明天皇、明日香村 亀形石遺物

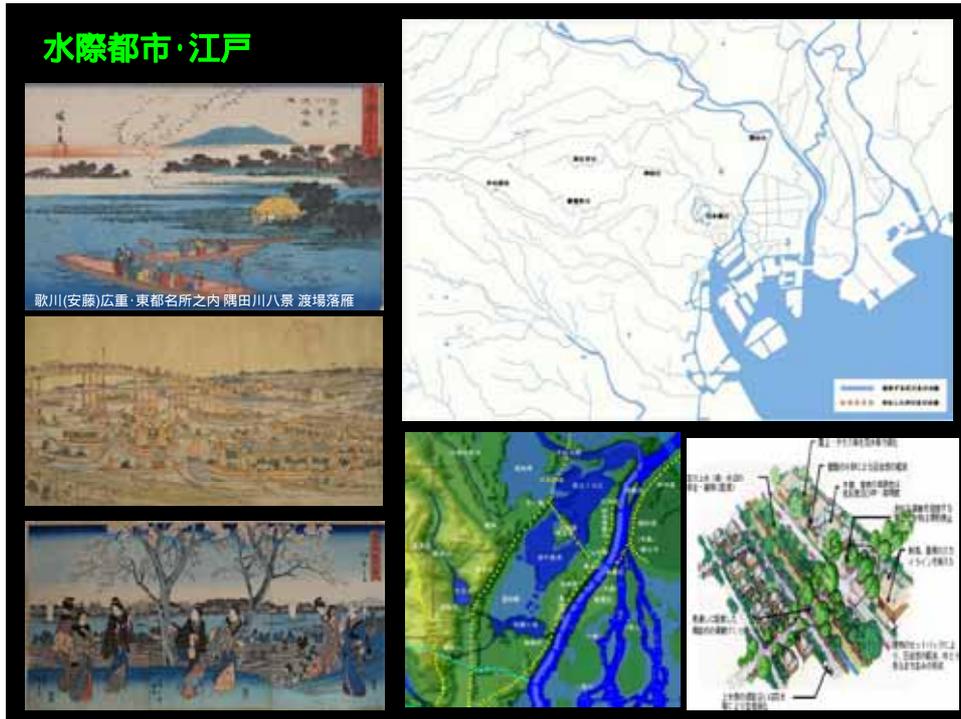
亀石(明日香村川原)

平城京左京三条二坊宮跡庭園

東院庭園

東院山石





THE PEOPLE Where will they go? か?

人々はどこに行くだろう

エベネザー・ハワード(Ebenzer Howard,)

年 (Year)	人口 (Population)
1650	約5億人 (約500万人)
1950	25億人
1987	50億人
1998	60億人
2011	70億人
2050	70億人 (推定)

自然からの隔離, 社会的な機会, 群衆の中の孤独, 歓楽の場所, 仕事場からの距離, 高い賃金, 高い家賃と物価, 雇用の機会, 超過労働, 失業者の大群, 霧と早魘, 高い下水, 汚い空気, かすんだ空, よく照らされた夜の通り, スラムと酒場, 壮大な建築群.

社会の欠如, 自然の美しさ, 仕事の少なさ, 手付かずの土地, 通行人は用心が必要, 木々, 牧草地, 森, 長時間労働でも低賃金, 新鮮な空気と家賃の安さ, 下水の欠如, 豊富な水, 娯楽の欠如, 明るい陽光, 公共精神の欠如, 社会改革の必要, 住人の多い住居, 孤立した村々.

自然の美, 社会的な機会, 簡単に野原や公園にたどり着ける, 低い家賃, 高い賃金, 低い税金, やることはたくさんある, 低い物価, 重労働はない, 起業のための場所, 資金の豊富さ, 澄んだ空気と水, よく整備された下水, 明るい家庭と公園, 煙やスラムはない, 自由, 共働.

都市の治水と利水

富岩運河・昭和5年

名古屋・富山には都市計画運河があった

大正15年

濃尾平野

名古屋市街

山から駆け降りる雨水と言った様相を呈する日本の国土、
よって国土の水の賦存量は必ずしも十分とは言えない。
そこで、土地の水はけと灌漑の双方を目的にし、地球1周分の横に導水する用水を整備。

水網的国土

水系と近代都市計画

テムズ川

産業革命の進展に伴い、河川の汚濁、都市における住環境の悪化にいち早く直面したロンドン、19世紀中葉、テムズ川の兩岸は、工場群、建築群により占められており、川沿いのパブリックアクセスは、存在しなかった。現在、国会議事堂から南北に連なる散歩路は、ヴィクトリア・エンバークメントとして、1860年代にテムズ川に新たな護岸をつくり、創出された

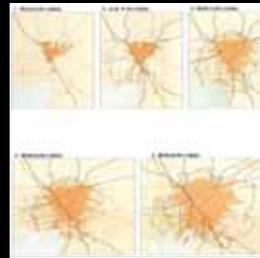
ボストン・マディー川 グリーン・ネックレス

ボストン市が手がけたのが、隣接するマディー川の河川改修事業であった。マディー川は、都市の中小河川であり、たび重なる洪水による溢水地域であったが、ボストン市はコモン・コモンスウェルズ・アヴェニュー、そしてマディー川を結び緑地帯の創出を試みたのである。この事業を遂行したのが、フレデリック・ロー・オルムステッドであった

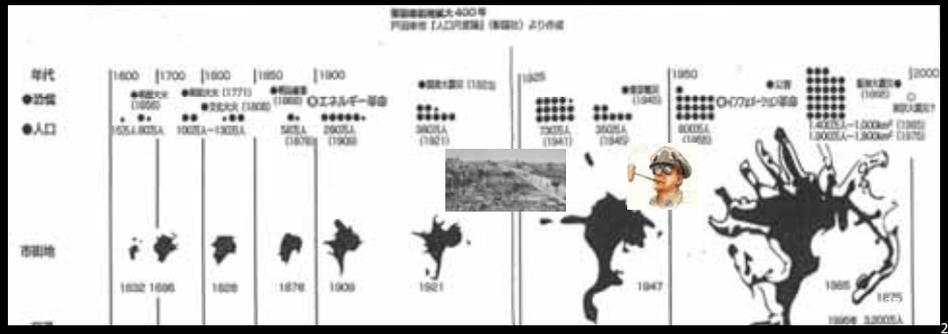
ミネアポリス・パークシステム

1857年、E.マーフィーの寄付により公園計画が始まる。公園系統の計画に当たったボウレス・クリーブランドは、川沿いの広範囲な用地を買収し、併せて湖岸地帯を保全する事で、良質な建築群を配し、経済的にも効果が遠流する公園計画の提唱を行った。地形・水系・植生、交通を総合的に分析し、良質な都市を形成するモデルがここに見られる。

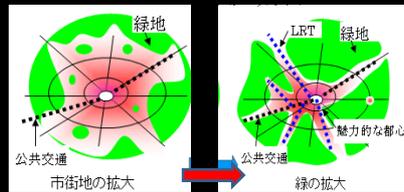
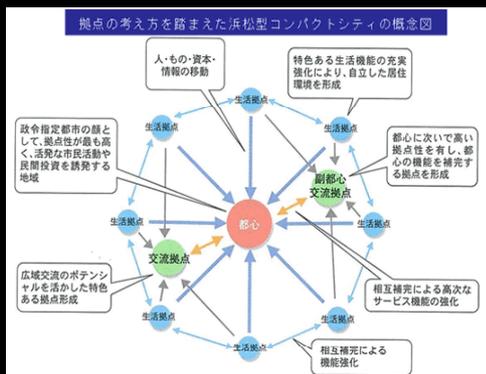
都市は成長にこそ存在の意義があり、その経済生産力こそが重要と言う考えからの脱却が必要。経済に奉仕するだけの高速道路から経済にも貢献する高速道路へと！



1945年敗戦と共に進駐軍がトラック部隊を率い道路を建設、やがて郊外住宅のモデルが導入され、都市が郊外にスプロールした。



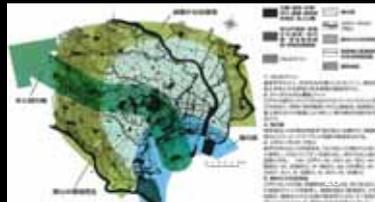
都市は再び自然と呼吸しコミュニティを重視する方向に！ → 交通網の拡大による都市の成長から機能複合・集約的な都市構造に戻す事に依る持続的未來を！



2020年東京オリンピック構想もコンパクトシティの方向を掲げている



1996年には、都心の再生、スプロール化した郊外の真のコミュニティへの再編、自然環境の保全、歩行者と公共交通に配慮したコミュニティ、アクセスしやすい公共空間とコミュニティ施設、多様な近隣地区、広範な市民参加などをうたった「ニューアーバニズム憲章(Charter of the New Urbanism)」を採択。



ソウル・清溪川の再生（都市高速道路からの脱却）

31

自然の力を「いなす」知恵の結晶、それが我国独自のレジリエンスな知恵

日本の美的自然景観は、**火山と水と風**により生まれた。

列島の住民達は何よりも、**安全安心**に暮らす知恵を、自然と関わりながら学び、空間的に身近に働きかける自然と、敬い畏れる自然とを区分し、**棲み分ける知恵**、そして**自然を眺む力と、押さえ込むのではなく、「いなす」という術**を獲得し、日常の生活空間と文化に、自然を畏怖・尊敬する設えを失わなかった。

その最も典型であり具体的手立てが、**みどりの効用**つまり**生態系サービスの恒常的確保を図ることが生きる上での命題**であったが故に、ありとあらゆる生活のシーンに**自然を取り込むデザイン**を忘れなかった。

自然の力を知り、更に生態系サービスの限界(環境容量)を知り、その範囲で自然の力を制御し、生態系サービスを最大化し、その持続性を担保する知恵

32

日本は元来、小単位・自己完結型の「生態学的社会生産ランドスケープ」を前提に、自然と共生する社会構造を構築し国土に適合した独自の景観を創出！

江戸時代300余の藩

流域界と一致させた行政区界

秋津洲やまと型景観
葛城山脈神武天皇の国譲りに詠われる景観場の平衡状態を維持する母性原理
八葉蓮華型景観
胎蔵八葉の蓮台のような山林の奥にある平地。谷から離れた聖性をもつ空間。

隠れ里、小ヤマト型景観
神を想像させる土地。盆地とすら言えないような山間の平地スペースであり、桃源郷や隠れ里伝説のイメージが

水分神社型景観
山から湧き出る水と両側の山に挟まれた沖積地の景観

園田型景観
谷の奥にある山宮と呼ばれる景観

藤原不比等…大宝律令(701年完成) 60余の国

●考資料:歴史地理(新人物往來社) 藤原領地高 田原一寛「明治初年

防災か減災か？

自然を資本財として位置付ける思想

Resilience = 自己復元力

力には力を

柳に風

【津波災害時】
森が緑の壁となる。津波を破砕し、威力を減退させ、避難する時間を稼ぐことができる。

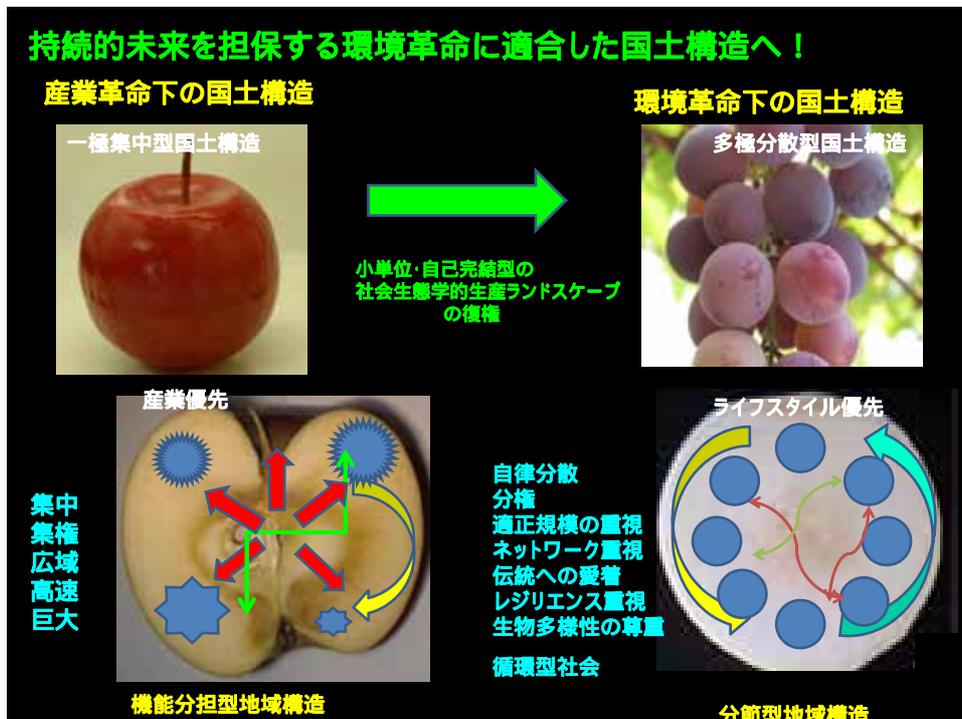
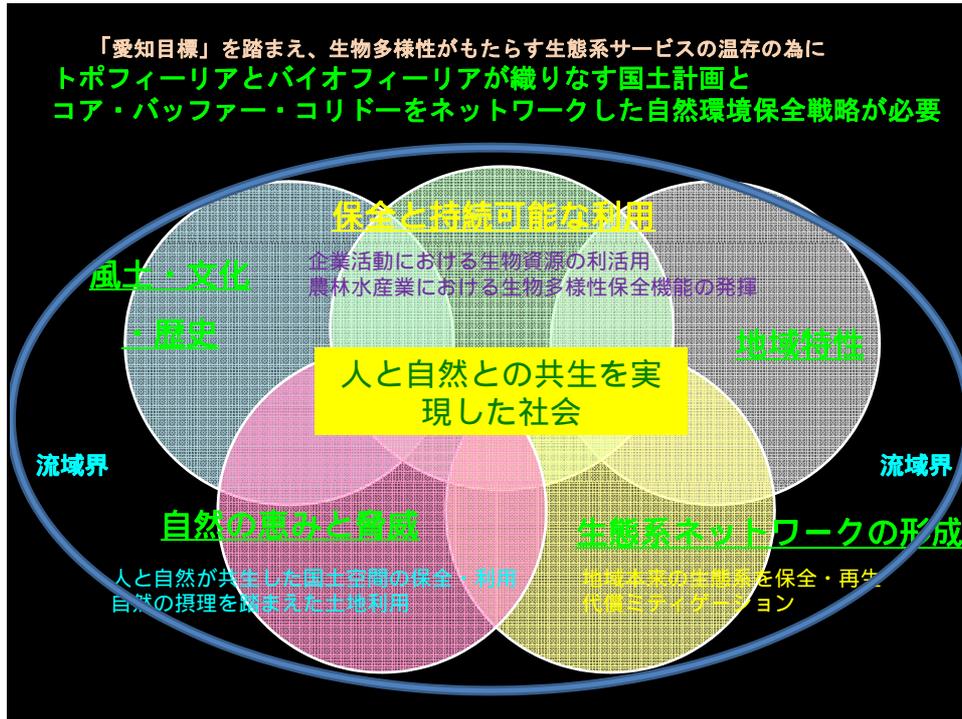
【引き潮時】
引き潮の際には、漂流する人や、財産が海に流出するのを食い止めることができる。

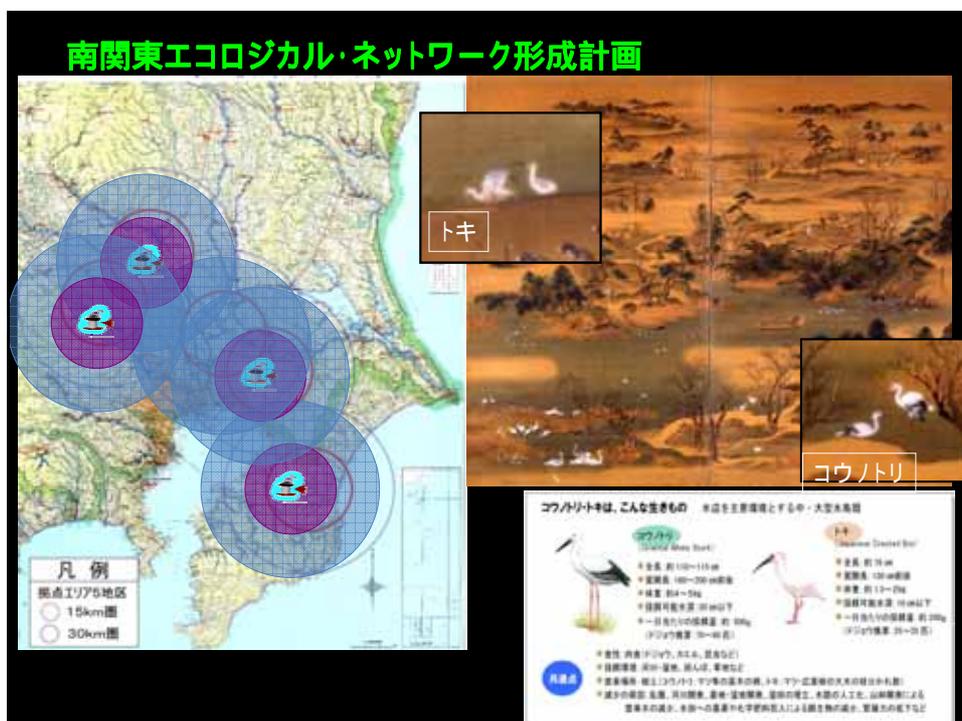
ヨハネス・デ・レーケ

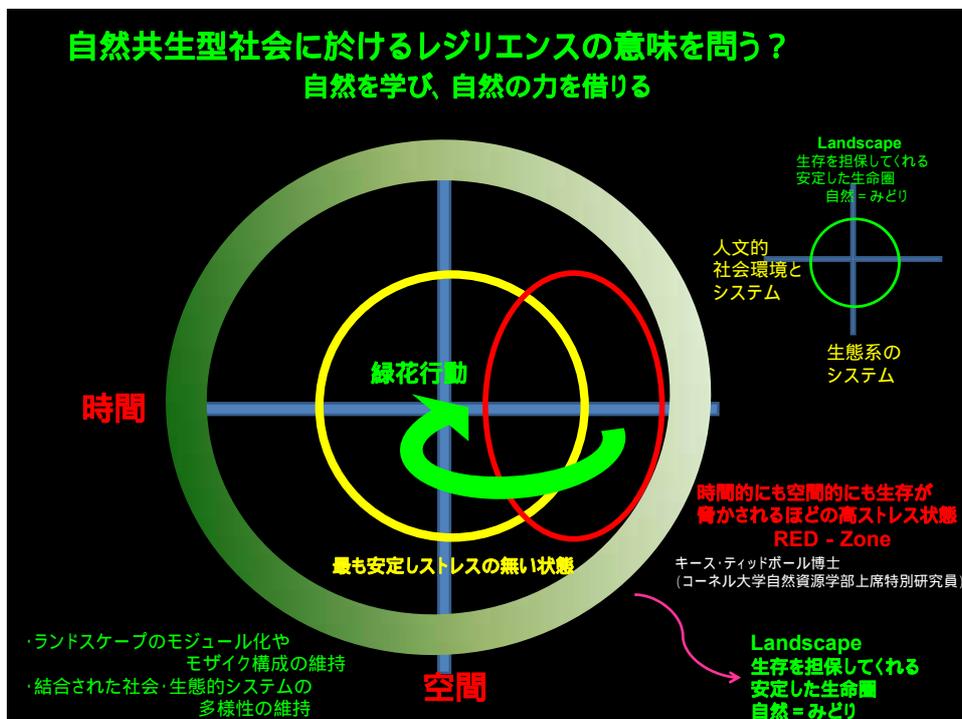
信玄堤

Resilienceを支える自然

近代の技術は、一般的に人工物により自然の応力を押し返す、或いは防ぐと言う発想が優先された。しかし、その昔には自然に存在する多岐な要素を巧みに活用しレジリエンスな条件を生み出す知恵が随所に見られた。







花と緑で美しい景観を創造し、地域を誇れる繋がり、 共の再構築を！

景観が人々の生活と応答しつつ風景に昇華した「らしさ」に溢れた魅力的な都市づくりは、市民・企業・行政などの「多様な主体」が、市街地の過半を占める民有地や建築物や町並み等の「多様な空間」での取組により実現される。

繋がり再生！ 人と人：人と自然：人と社会：過去と未来

希望の庭

陸前高田市の津波被災地で、オランダの有名デザイナーやガーデニング雑誌が参加して庭園造りが進んでいる。「心を癒やし、笑顔で集まれる場所を作りたい」と、住民やボランティアが協力して土地を手入れしている。

同市米崎町の国道45号沿いの高台に5日、パンジーやチューリップ、スイセンが同心円状に並び広さ約660平方メートルの庭園が完成した。ガーデニングが趣味の吉田正子さん(62)が、津波で流された自宅近くの土地に、ボランティアらと、がれきを撤去して造った。





樹齢：260年以上
高さ：30m
胸高直径：80cm



(例)オープン・ガーデニング運動





英国では、原生林が約10%しか残されていない。農地拡大のために、原生林が伐採されてしまったからで、過去の過ちからの償いとして「緑を、緑を」との意識が高まり、庭園造りに勤む習慣が、そうした中で、年に数回個人の庭をチャリティのために公開するという「オープンガーデン」が盛んに行われている。N.G.S.「The National Gardens Scheme Charitable Trust(ナショナル・ガーデン・スキーム)」という組織により、公開される庭の場所や日程をまとめたのが「GARDENS OF ENGLAND AND WALES」という本、通称「イエローブック」と呼ばれ、親しまれている。

豊かさを追い求める時代から、深める時代へ！

利益結合型社会から、地縁結合型社会に！！

絆

祭りと災害 = 減災への演習

コミュニティを維持する仕掛け



北浜町











自助・互助・共助・公助が
絆により繋がっている社会



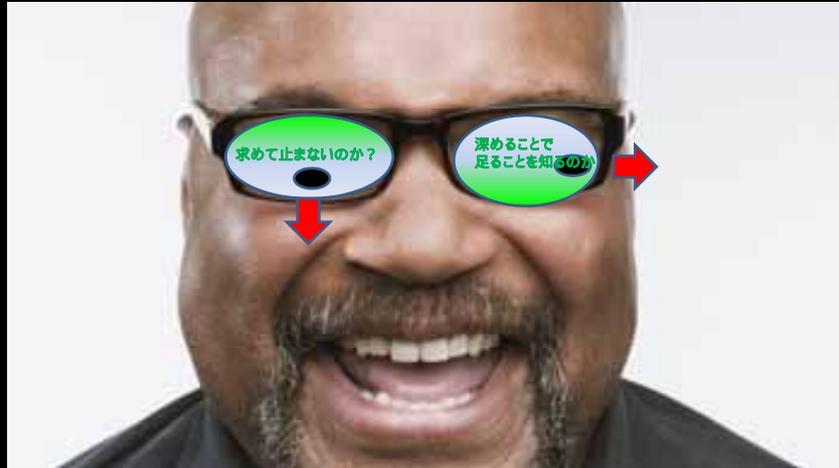
野島新層保存館





現在の成長を選ぶのか、成熟を選び未来を着実にするのか？！

成熟 = 人間が創りだした社会システムと、自然本来の社会システムの調和を図る



二宮尊徳

道徳なき経済は罪科であり、経済無き道徳は寝言である。

天災と国防

寺田寅彦



文明が進めば進むほど天然の暴威による災害がその劇烈の度を増すという事実である。

……文明が進むに従って人間は次第に自然を征服しようとする野心を生じた。そうして、重力に逆らい、風圧水力に抗するようないろいろの造営物を作った。そうしてあつた自然の暴威を封じ込めたつもりになっていると、どうかした拍子に檻(おり)を破った猛獣の大群のように、自然があばれ出して高樓を倒壊せしめ堤防を崩壊(ほうかい)させて人命を危うくし財産を滅ぼす。その災禍を起こさせたもとの起りこりは天然に反抗する人間の細工であると言っても不当ではないはずである。災害の運動エネルギーとなるべき位置エネルギーを蓄積させ、いやが上にも災害を大きくするように努力しているものはたれあろう文明人そのものなのである。

……そうしてまた、工事に関係する技術者がわが国特有の気象に関する深い知識を欠き、通リーベんの西洋直伝(じきでん)の風圧計算のみをたよりにしたためもあるのではないかと想像される。これについてははなはだ借越(せんえつ)ながらこの際一般工学者の謙虚な反省を促したいと思う次第である。天然を相手にする工事では西洋の工学のみにたよることはできないのではないかとというのが自分の年来の疑いであるからである。

……浅薄な教科書学問、の横行のために蹂躪(じゅうりん)され忘却されてしまった。そうして付け焼き刃の文明に陶醉した人間はもうすっかり天然の支配に成功したとのみ思い上がって所きらわず薄弱な家を立て連ね、そうして枕(まくら)を高くしてきたるべき審判の日をうかうかと待っていたのではないかとこの疑いも起こし得られる。もっともこれは単なる想像であるが、しかし自分が最近に中央線の鉄道を通じた機会に信州(しんしゅう)や甲州(こうしゅう)の沿線における暴風被害を瞥見(べっけん)した結果気のついた一事は、停車場付近の新開町の被害が相当多い場所でも古い昔から土着と思わるる村落の被害が意外に少ないという例の多かった事である。これは、一つには建築様式の相違にもよるであろうが、また一つにはいわゆる地の利によるであろう。旧村落は「自然淘汰(しぜんとうた)」という時の試練に堪えた場所に「適者」として「生存」しているのに反して、停車場というものの位置は気象的条件などということは全然無視して官僚的政治的経済的な立場からのみ割り出して決定されているためではないかと思われるからである。

(一部を抜粋)

我国固有の景観の基本的資質を読み取りそれを技術に生かした歴史的叡智
社会生態学的生産ランドスケープ = SATOYAMA



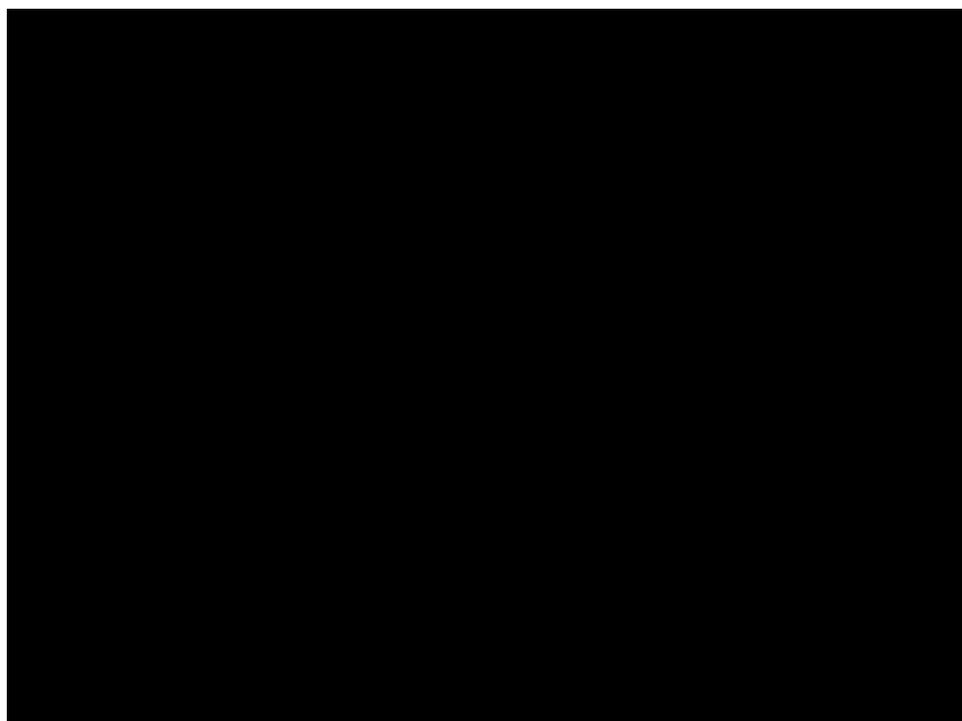
COP10標語:
“Life in Harmony, into the Future”
「いのちの共生を、未来へ」

愛知目標のビジョン:
“a world of “Living in harmony with nature”
「自然と共生する世界」

COP11標語:
“ Nature Protects if She is Protected”
「自然を守れば自然が守ってくれる」

豊かさを追い求め、利益で繋がる社会ではなく、自然と共生し、豊かさを築く事への喜びのある社会に！
未来は、エコロジーとエコノミーの融合に掛かっている
その発展に立ち、それと時代に適合した新たなライフスタイルの獲得、
そしてその基盤に基づいた技術開発に託される！

エコ = 古代ギリシャ語 オイコス(共同体)
オイコス+ロギス(真理) = エコロジー
オイコス+ノミ(秩序) = エコノミー



みどり(水+緑)は、自然と人と、人と人とを、人と社会と、都市と農村を、過去と未来を繋ぐ「つなぎ手」



空気の人身を養うことも、飲食と同じく日々不断に其効を現せり。炭酸瓦斯は、草木の肥養には、反って第一の効用をなすものにして・・・地上の炭酸瓦斯は草木に吸い取って清浄なる酸素となし、空気中に呼出し、人の滋養をつくるものなり。故に病院は草木多き地を選び、市てんの煙火を離る処を違む。これ清浄の空気をとるためなり。

特命全権大使米欧回覧実記(三)(明治六年)

公園は都市の肺 (The Lungs of a City)

1870年米国公衆衛生協会 ジョン・ラウチ

